様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

平成 ２６ 年　 ６ 月 ２１ 日現在

機関番号：３２６６５
研究種目：基盤研究(C)
研究期間：2009～2013
課題番号：２１６０１００６

研究課題名（和文）植民地統治期における台湾原住民に関する映像記録の鑑定及び文化人類学的考察

研究課題名（英文）Anthropological Research and analysis on the Old Photos of Taiwan Indigenous Peoples

研究代表者
清水　純（SHIMIZU, Jun）

日本大学・経済学部・教授

研究者番号：３０１９２６１０

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　2,200,000円、（間接経費）　660,000円

研究成果の概要（和文）：日本植民地時代に撮影され、博物館･研究所等で長期にわたって保存されてきた台湾原住民に関する映像資料は、過去の文化・社会を知るための貴重な民族誌資料であるにもかかわらず、多くの場合、映像の伝える情報は深く掘り下げて解明されることなく今日に至っている。本研究の結果、様々な個人や研究機関に残された写真資料に関する情報を集めることができた。また、個人研究者の遺族から贈呈された写真データについては電子化を行った。これらの成果は既に研究資料として蓄積されており、論文執筆や報告書作成に利用した。

研究成果の概要（英文）：Old photos of Taiwan Insigenous peoples which were taken during the Japanese Occupation, were the important ethnographic data for recognizing their traditional culture and societies. However, those information in the photographic data have not been analysed in the deep level. In this project we gathered not a few information about those photos in museums and research institutes in Japan nad Taiwan, and practiced field researches to find the places and names of those ethnic groups of these pictures. In addition, we have accepted some photos of a personal researcher and changed them into the electronic data. These data are available for research. We have already referred them in our papers and reports.

研究分野：複合領域

科研費の分科・細目：文化財科学・博物館学

キーワード：台湾原住民　写真　画像　映像　植民地時代　鑑定　文化人類学

１．研究開始当初の背景

日本植民地時代に撮影され、博物館･研究所等で長期にわたって保存されてきた台湾原住民に関する映像資料は、過去の文化・社会を知るための貴重な民族誌資料であるにもかかわらず、多くの場合、映像の伝える情報は深く掘り下げて解明されることなく今日に至っている。しかし、植民地時代から一世紀を経た今日、映像が伝える情報は十分な検討に値するものと認められる。台湾原住民の社会は、植民地統治下における伝統文化の強制的改変、戦後の台湾の経済成長に伴う大規模な社会変容・伝統文化消失という急激な流れを経てきた結果、かつての姿とは大きく異なったものとなった。原住民の権利促進・文化復興運動が隆盛となっている現在、過去の映像資料に残された情報を探求することは、研究者にとっても、また原住民自身にとっても、きわめて重要な今日的意義を持つ。本研究は、(1)国内の博物館･研究所等に保存された映像資料の横断的相互関連付け作業を行い、(2)内容鑑定のための現地調査を通じて情報の質と精度を高め、(3)研究や展示への新たな資料活用方法の開拓するものであった。近年、博物館や研究所等の資料のデータベース化が進み、台湾原住民に関する映像資料のなかにもインターネット上での閲覧が可能になったものが少なくない。80 年代末に開設された東京大学総合研究博物館の東アジア・ミクロネシア古写真資料画像データベース（鳥居龍蔵撮影の写真収録）をはじめ、2003 年に開設された東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所（以下 AA 研と表記）の小川･浅井資料データベースには、多数の台湾原住民映像資料が収められている。しかし映像に付された解説の情報量は限られたものしかなく、また、場所や民族名に関して、不明な点も多く、また誤謬も見受けられる。本研究は、各研究機関が個別に整理公開してきた映像資料を互いに横断検索し、映像の内容を比較すると同時に、データベース化がなされていない各地の博物館･研究機関等に散在する資料を横断的に探索・整理し、写真資料の相互関連性と映像情報を明らかにする作業を行う必要があった（たとえば国立民族学博物館・瀬川孝吉コレクション、沖縄県立公文書館・河村只雄資料など）。その過程で文化人類学の方法を用いた現地での聞き取り調査を行うのが、本共同研究の中心的課題である。映像資料を提示して聞き取りを行うことにより、伝統的生活文化の詳細が現地の人々の記憶から掘り起こされ、映像を取り巻く過去の社会生活や習俗に関する情報を収集することが可能になると考えた。

２．研究の目的

本研究は、(1)国内の博物館･研究所等に保存された映像資料の横断的相互関連付け作業を行い、(2)内容鑑定のための現地調査を通じて情報の質と精度を高め、(3)研究や展示への新たな資料活用方法の開拓を目指すものであった。

本研究は、各研究機関が個別に整理公開してきた映像資料を互いに横断検索し、映像の内容を比較すると同時に、データベース化がなされていない各地の博物館･研究機関等に散在する資料を横断的に探索・整理し、写真資料の相互関連性と映像情報を明らかにする作業を行うことを目的とする（たとえば国立民族学博物館・瀬川孝吉コレクション、沖縄県立公文書館・河村只雄資料など）。その過程で文化人類学の方法を用いた現地での聞き取り調査を行うのが、本共同研究の中心的課題である。映像資料を提示して聞き取りを行うことによって、伝統的生活文化の詳細が現地の人々の記憶から掘り起こし、映像を取り巻く過去の社会生活や習俗に関する情報を収集する。

３．研究の方法

博物館･研究所などの所蔵する映像データを収集・整理し、横断検索と鑑定作業を進め、続いて台湾における現地調査を分担して行なう。現地では聞き取り調査を中心に、戸籍資料の調査、文献調査を組み合わせた。すべての原住民集団についての研究を進めるには時間的な制限もあるため、本研究ではいくつかの集団に絞って調査を進めた。具体的には、代表者および分担者の関心の対象となってきた平埔諸族〔主としてタイヴォアン、シラヤ、パポラ、パゼッヘ、クヴァランの各族〕、およびタイヤル族、タロコ族、セデック族、アミ族、サキザヤ族、パイワン族を中心とし、博物館･研究機関が所蔵する映像資料の横断的調査、およびそれらを基にした現地調査を行なった。現地調査では、(1) 写真を複製して持っていき、現地の人々に対して、撮影場所、人物、写真に現われた活動や事物に関する風俗習慣などの聞き取りを行なった。(2) 日本時代の戸籍、撮影者のフィールドノートなどの記録を参照し、被写体となった人々についての情報を収集する。(3) 被写体となった人とその子孫や、住んでいた村、または民族の、映像記録の時代から今日までの歴史等を、地道な聞き取りと文献調査によって探索し、ライフヒストリー、家族史、村落史を明らかにする。そして、現地調査で得られた結果に加えて、(4) 時代背景やその後の社会変化などを関連論文や台湾総督府関連の文献資料の検討を通じて考察した。

４．研究成果

本研究は、平成 21 年～25 年までの科学研究費助成事業、基盤研究（C）において、研究課題：「植民地統治期における台湾原住民に関する映像記録の鑑定及び文化人類学的考察」のもとに 5 年間の研究を行い、様々な個人や研究機関に残された写真資料に関する情報を集めることができた。また、個人研究者の遺族から贈呈された写真データにつ

いては電子化を行った。これらの成果は既に研究資料として蓄積されており、論文執筆や報告書作成に利用した。

具体的には、初年度（2009 年度）は、国立民族学博物館にある写真資料の鑑定を行ないたいと考えた。しかし、博物館との交渉の結果、当初予定していた個人コレクションについては、博物館側の特殊事情により、閲覧が認められなかった。しかし、もう 1 つの馬淵東一写真コレクションについては閲覧が認められたので、清水、原、山本の 3 名が国立民族学博物館の協力を得て、写真現物を確認し、調査を行なった。現在写真の複写は認められないが、閲覧は可能であり、閲覧によってわかる範囲の写真内容の特徴や民族名を一覧にした。

2010 年度の研究では、①国立民族学博物館の写真コレクションの調査について、『台湾原住民研究』14 号に報告を執筆した。②国内の複数の研究機関が所蔵する写真についての状況調査を昨年度に引き続き行った。その結果、資料の所有と使用について、権利関係者間にさまざまな問題があり、参観しにくい状況が生じていることを認識した。③浅井恵倫撮影の写真を日本統治時代の他の写真と比較鑑定しようとしたが、上述の②の問題があったため、代わりに補助的資料として、戦後の比較的早い時期における調査研究者が撮影した写真資料を活用する企画を立てた。機関所蔵ではなく、個人所蔵の写真・映像資料について調査した結果、故鈴木満男氏（文化人類学者）撮影の写真を、鈴木夫人より寄贈された。また、言語学者土田滋氏より、1960 年代の花蓮県新社村のクヴァラン族村落と家屋を撮影した写真の寄贈を受けた。また、2 月に研究会を開き、土田氏の写真資料のほか、末成道男氏（文化人類学者）撮影による 1960 年代～70 年代のパイワン族調査の際に撮影した写真および動画を参観し、報告を受けることができた。

2011 年度の研究では、国内の調査に加えて台湾での調査、映像資料の発掘と相互比較および鑑定を行なう一方、写真をもとにした聞き取り調査、文献資料の調査を進めた。

現地調査では、台湾に一年間滞在中の連携研究者山本が、台湾の博物館や大学等が所有する日本時代の写真資料についての横断的調査およびパイワン、ルカイ、ブヌンなどに関する実地調査を行った。連携研究者の原は 3 月に台湾調査をおこない、台東県のアミ族の写真鑑定を行った。このほか清水は鳥居龍蔵の平埔族写真と、日本植民地時代の戸籍調査資料との照合や研究成果をまとめた。また、昨年度の研究の過程で、遺族より使用許可を受けた故鈴木満男博士（文化人類学者）撮影の台湾調査時の写真を、デジタルカメラで撮影し、インデックスを作成した。写真アルバムにはネガフィルムも含まれ、改装前の「埔蕃」の家族とその邸宅が移されているなど 1970 年代の台湾に関する貴重な資料である。

土田滋教授寄贈のクヴァラン族写真については、枚数が少ないため、清水が電子化を行い、台湾で刊行される予定の論文に使用した。

2012 年度の研究でも、これまでに引き続き国内調査に加えて台湾での調査、画像・映像資料の発掘と相互比較および鑑定を行なう一方、写真をもとにした聞き取り調査、文献資料の調査を進めた。現地調査では、連携研究者山本が、台湾の博物館や大学等が所有する日本時代の写真資料についての横断的調査を継続して行った。連携研究者の原は 3 月に台湾調査をおこない、台東県のアミ族の写真鑑定を行った。また 5 月の研究会において台東のアミ族の写真鑑定に関する報告を行った。このほか清水は鳥居龍蔵の眉蕃写真に関する研究成果をまとめ、台湾の国立政治大学で開催された台日原住民フォーラムにおいて発表を行い、更に日本大学経済学部紀要に論文を発表した。台日フォーラムでは台北科技大学所蔵の千々岩助太郎撮影写真を参観、確認した。

また、昨年度電子化した鈴木満男博士による台湾の写真・ネガフィルムについて保存版複数を作成した。また、本年度は宮本記念財団所蔵の日本時代のビデオを参観した。また山本が制作に協力した北村皆雄氏撮影の台湾原住民の入れ墨に関する動画制作の経緯についての報告があった。

2013 年度はそれぞれが、前年度に引き続いて調査を行ったが、さらにこの 5 年間の研究成果を単著、論文や報告にまとめて発表した。また、研究成果報告書を取りまとめ、冊子に綴じて関係者に配布した。

５．主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計　　４件）

１.<u>山本芳美</u>　2014 年 5 月『順益台湾原住民博物館 20 周年記念論集』順益台湾原住民博物館・台北「新聞錦絵とかわら版、写真にみる牡丹社事件――視覚化された台湾出兵と台湾原住民族」(forth coming)(査読無)

2.<u>原英子</u>　2012 年「台湾アミ族のシカワサイと童乩による神と霊魂をめぐるシャーマニズム的実践」台湾原住民研究第 15 号　3-25 頁(査読無)

3.山本芳美・原英子・清水純(筆頭著者山本) 2010年「馬淵東一アーカイブの台湾写真を整理して」『台湾原住民研究』第14号:180-188 風響社 (査読無)

4.原英子 2009年「馬淵東一のパングツアハ族研究(馬淵東一東一的Pngtsah族研究)」台日原住民族研究論壇「馬淵東一的学問與原住民族研究」台湾国立政治大学原住民族研究中心(台湾台東史前文化博物館) 242-253頁(査読無)

〔学会発表〕(計1件)
学会発表 2012年6月
1.山本芳美「『紋面民族』――台湾原住民族タイヤル、タロコ、セデックの『民族認定』その後とイレズミ」第46回日本文化人類学会広島大会・広島大学

〔図書〕(計 4 件)
1.清水純 2014 年『画像が語る台湾原住民の歴史と文化:鳥居龍蔵・浅井恵倫撮影写真の探究』風響社398頁

2.山本芳美 2013年「「台湾原住民族」と「日本人」のイレズミとその記憶――イレズミへの賞賛と規制をめぐって」都留文科大学比較文化学科編『せめぎあう記憶――歴史の再構築をめぐる比較文化論』柏書房127-167頁

3.原英子 2010年「パングツアハ族とアミ族―民族名称表記の変遷にみる馬淵東一の台湾原住民族研究への視点―」『馬淵東一と台湾原住民族研究』風響社 253-279頁

4.順益台灣原住民博物館(共著:山本芳美・原英子・清水純を含む)2009 年『百年來的凝視―日本國立民族學博物館珍藏台灣原住民文物―』(跨越世紀的映像 系列5)
212頁

6. 研究組織
(1)研究代表者
清水 純(SHIMIZU Jum)
日本大学経済学部・教授
研究者番号:30192610

(3)連携研究者
草塲英子(KUSABA,Eiko)
岩手県立大学盛岡短期大学部・准教授
研究者番号:80180991

山本芳美(YAMAMOTO,Yoshimi)
都留文科大学文学部・准教授
研究者番号:50363883